

糖尿病血液透析 8例における レパグリニドの有用性および 食前一括服用の検討

今中 俊爾, 柴崎 泰延
(医療法人泰恵会しばさきクリニック)

Key words▶

レパグリニド
血液透析
服薬アドヒアランス
食前一括服用

要 旨

レパグリニドは、糖尿病血液透析症例で使用が可能であるが報告は少ない。その有用性と服薬アドヒアランスを検討した。対象は 8 例 (56~81歳)、レパグリニドは0.375~0.75mg/日、7 例はDPP-4阻害薬に追加され、観察期間は 6~20ヵ月 (平均12.3ヵ月) であった。8 例中 4 例は、レパグリニド開始時のグリコアルブミン (GA), 血糖 (PG) 値以下で推移し、血糖コントロールは改善した [GA (%) : 29.3→24.6, PG (mg/dL) : 224→152]。そのうち 1 例は、Cペプチド値が著減しインスリン抵抗性の改善によるものと思われた。全例で低血糖はみられず、最長20ヵ月間安全に使用できた。服薬アドヒアランスの改善のため、食前一括服用を 3 例で行ったが、継続投与が可能であった。レパグリニドは、透析例で選択できる有用な薬剤と思われた。

○はじめに○

糖尿病血液透析患者の薬物療法の選択は制限されている。グリニド系は、レパグリニドおよびミチグリニドが慎重投与とされているが、使用可能である。レパグリニドは、その有効性が報告されており、血糖低下作用は比較的強いといわれているが¹⁾²⁾、透析例の報告は少ない³⁾。今回、われわれは透析例における有用性および服薬アドヒアランスについて検討した。

○症 例○

当クリニックでレパグリニドを開始し、少なくとも 3 ヶ月以上治療の変更

をせず、経過を観察できた 8 例を対象とした。透析前のグリコアルブミン (GA, %), 血糖 (mg/dL), Cペプチド (CPR, ng/dL), およびドライウエイト (DW, kg) の増減を加えて、治療内容が変更される時点まで血糖コントロールを評価した。8 例の背景、血糖関連検査、治療経過を表に示す。BMI (body mass index), 検査結果は、レパグリニド開始時を示す。7 例が DPP-4阻害薬に追加されていた。レパグリニドの投与量は通常 1 回0.25mg としたが、症例により0.125mgから漸増し適宜増減した。観察期間は 6~20ヵ月 (平均12.3ヵ月) であった。DWは治療開始時および評価最終時を

示す。

1 血糖コントロールおよび副作用

血糖コントロールは、開始時のGA値以下で推移し、継続して改善した症例群 (A群)、少なくとも 3 ヶ月は改善し、その後開始時のGA値より上昇し悪化した症例群 (B群) および改善、悪化の傾向がみられなかった症例 (C群) の 3 群に分けられた。

1) A群 (症例 1~4) (図 1)

症例 1~4 の 4 例 (50%) が該当した。症例 2 は、血管炎に対しプレドニゾロン 5 mg を開始後血糖は悪化し、その 2 ヶ月後にレパグリニドを開始した。症例 4 (図 2) は、血糖コン